



会長のブログ

(Roger Coates, IRPA President)

なんて興味深い年でしょうか！我々は既に、ラテンアメリカ(キューバのハバナ)、アジア/オセアニア(オーストラリアのメルボルン)、ヨーロッパ(オランダのハーグ)、そしてチュニスで開催されたアフリカ地域会合という4つの地域会合を開催しました。これらはすべて信じられないほどに成功し、IRPAコミュニティ全体の10%に達する合計約1500名の参加を得ました。さらに、私は幸運にもインド、イスラエル、英国、米国の放射線防護学会の年次総会に出席し、さらに約2000名の参加者をリストに追加しました。

では、これからはどうなるでしょうか？さて、我々専門家には、多くの共通の課題と共通の関心があることは明らかです。そのいくつかを以下に概説します。

我々専門家の将来について懸念があります。次世代の放射線防護の専門家はどこから来るのでしょうか？十分な人材を集め、彼らが有能であることを確認するにはどうすればよいのでしょうか？しかし、課題がある一方で、希望もあります。これらの会合には膨大な数の若者が参加し、その熱意と参加する意欲は驚くほどです。地域会合において、地域別にYGN(Young Generation Network:ヤング・ジェネレーション・ネットワーク)を立ち上げてきたところであり、これはIRPAにおける極めてタイムリーで成功裏な進展だと考えています。

もう一つの重要な要素は、我々専門家の“国際化”です。各々の放射線防護学会は、もちろん国内問題への取組が中心ですが、国境を越えた活動や共有がもたらす利益についても認識が深まっています。地域・国際ネットワークの構築数はその証拠です。そして、限られた資源とやや散在した放射線防護共同体である最近のアフリカ会合でも見られたように、IAEA、WHO/PAHO、ICRPなど主要国際機関が果たした重要な役割は明らかです。

これらすべての会議に共通するもう一つの楽しい要素は、IRPAの現在の主要テーマの多くの重要性を認識することです。私はYGNの重要性について言及していますが、我々の他のプログラムもまた大きな関心と関連性があるようです。一般的に、そして、特に医療分野では、これらは放射線安全文化を含みます。放射線とリスクの公衆の理解は常に大きな懸念と興味のある事項であり、ALARAの「合理性」、評価の保守性、社会のための費用に値する価値の確保など、低線量での意思決定に係る我々の現在の重点は、すべて議論に反映されています。

IRPAは、専門家間の協力を促し、重要な問題を提起し、探求し、重要な国際パートナーと効果的に連携し、我々専門家において中心的な役割を果たしているものと確信しています。

この“IRPA会報”の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

IRPA 出版委員会

委員長 Christopher Clement ・ 副委員長 Bernard LeGuen ・ 会報編集担当 Chunsheng Li & Ali Shoushtarian ・ 加盟学会連絡担当 Adelene Gaw ・ ウェブサイト管理運営担当 Andy Karam & Chris Malcolmson ・ ソーシャルメディア対応担当 Sven Nagels & Chris Malcolmson ・ メディア情報収集担当 Sven Nagels, Young-Khi Lim, Takatoshi Hattori ・ プロシーディングアドバイザー Haruyuki Ogino



医療における放射線安全文化: IRPA,WHO,IOMP の共同イニシアチブ

(Bernard Le Guen, IRPA 総務理事)

医療の動向は、世界中で、急速に進む科学技術の発展とその実装を伴っている。放射線安全文化は、世界的に関心と重要性を増すテーマになっている。IRPAには医療分野で果たすべき正当な役割がある。IRPA、IOMP、WHOは、2014年の“放射線防護文化の確立に関する指針”の公表を受け、医療における放射線安全文化を共同イニシアチブとして掲げている。患者や従事者の放射線安全が向上しつつある一方で、安全文化を発展させ、病院の安全文化との連携を図る行動が求められている。

放射線安全文化(RSC:Radiation Safety Culture)のフィードバックを収集し、重要な要素を特定するため、医療従事者、規制機関、保健当局、製造者及び患者団体の代表者を集め、世界各地で一連のワークショップを開催している。これらのワークショップの目的は、RSCを確立し、維持するための優先順位の設定に役立つようにさまざまな地域の安全と文化の問題を収集することであった。その目的は、医療環境における持続可能な安全文化プログラムの一環として、RSCの確立と維持のための指針を提供する枠組み文書を開発することである。IAEAは我々に参加し、その文書に貢献した。最終的な地域ワークショップは、第52回HPS中間会議の直後の来年2月にサンディエゴで実施され、この最初の草案を提示し、議論する機会となる。最終草案は、2020年5月にソウルで開催されるIRPA15総会に向けて準備される必要がある。

IRPAにはモットーがある。組織内の共通の文化レベルで放射線防護を組み込みことは、我々が目指す成果を実現する最も効果的な方法である。医療における放射線安全文化の継続的改善は、我々の共通の責務である。



IRPAは、非電離放射線の分野での活動を強化する (Klaus Henrichs and Sigurdur Magnusson, IRPA 理事会)

2017年の理事会(EC)において、国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)の財政支援に関する議論が行われた後、加盟学会(AS)から、非電離放射線分野における活動と関心について学ぶために、2018年春にアンケートが作成された。

1. あなたの学会は、NIRの分野で活動していますか？

光(インコヒーレント)	はい ○	いいえ ○
レーザー	はい ○	いいえ ○
電磁場	はい ○	いいえ ○

2. あなたの学会の活動を記載して下さい。

3. あなたの学会から見て:IRPAはNIRの分野で活動を展開する場合、それは有用であろうか？

4. あなたの学会がIRPAに期待する活動や支援の種類は？

5. あなたの学会のメンバーは、NIRの分野で将来のIRPA活動を支援する準備がありますか？
連絡先情報を提供してください:

17の関連学会から回答を得た。これらの加盟学会の大多数(>60%)は、ほぼすべての分野(光、レーザー、電磁場)での活動を報告しており、IRPAが戦略を策定し、この分野での活動を強化する緊急の必要性を示している。IRPAに期待する活動と支援に関する関連学会のフォローアップ調査は、電離放射線と同様のものが必要であることを明らかにした。

いくつかの加盟学会から、可能であればICNIRPやWHOが進展させたNIR安全に関するガイドラインや基準の周知を要請する声があった。ICNIRPが科学的な結果を収集し、限度について提言を行うと示されたが、現時点においてNIRの分野では標準と指針が限られており、IRPAが満たす手助けをするのに明らかなギャップがある。

NIRへの公衆の理解とコミュニケーションは、加盟学会の回答のもう一つの重要な特徴であった。医学を含むこの領域におけるIRとNIRの間にはほとんど差がないようである。

ECは、協議に非常に肯定的な結果があったこと、そしてIRPAには、将来的にNIRに取り組むことに関心があると結論づけた。IRPAは NIR に関する新しいタスクグループ(TG)を確立することを決定した。加盟学会は2018 年末までに、このTG のメンバーを推薦するよう求められている。



NSFS, 北欧放射線防護学会

(Ritva Bly, STUK)

北欧放射線防護学会(NSFS)は、1964年6月10日、ロルフ・シーベルト教授の主導のもとに設立され、北欧諸国(デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン)の放射線防護に積極的な人々がこれに加わった。最初の会議は1966年にストックホルムで開催された。NSFSは活発に活動を続けており、50年以上にわたって定期的に会議を開催してきている。

北欧5か国では、放射線防護と原子力安全に関する幅広い活動が行われ、多くの専門家がこれに取り組んでいる。各国には、NSFSとして展開し得る組織がある。各国は、多方面にわたる連携を実施し、会議を開催するには規模が小さいが、NSFSはこのような活動の場を提供している。一方、NSFSのもとで各国レベルの小規模な活動も行われている。例えば、フィンランドで開催された、放射線防護の新しいアプローチについてのコンテストなどである。このコンテストは、STUK(フィンランド放射線・原子力安全局)が主催する放射線防護に関する会議の中で、2018年6月に開催された。コンテストの勝者には、NSFSから2019年6月10日~14日にヘルシンキで開催される北欧IRPA地域会合への招待状が贈られた。

「北欧IRPA地域会合2019」のテーマは「放射線防護一次のレベルへ」である。会議の中では、北欧における、あるいは国際的な最新の取り組みや考え方が紹介され、議論される。会議情報はウェブページwww.nsf.orgで見ることができる。





第5回アジア・オセアニアIRPA地域会合 (Cameron Jeffries、ARPS前会長)

第5回アジア・オセアニアIRPA地域会合(AOGRP-5)が、2018年5月20-23日にオーストラリア・メルボルンで開催された。AOGRP-5のテーマは「放射線防護の重要課題:進化する基準、リスクの認識と適用の場」であった。会合は、IRPA、IAEA、ICRP、IOMP、UNSCEAR、およびWHOに加え、アジアの放射線防護学会の支援を得て、オーストラリア放射線防護学会(ARPS)によって運営された。

AOGRP-5は、メルボルンコンベンションセンターで16カ国から300人以上の参加者が参加して大成功を収めた。21の指定トピックスの流れに沿って、126の口頭発表と50のポスター発表が行われた。ヤングジェネレーションネットワーク(YGN)のセッションが開催され、交流促進のための昼食会が実施された。会議中、9つの朝食時のリフレッシュャーコースが行われ、参加者がそれぞれに関心のあるトピックを学び直す機会が提供された。

最優秀若手研究者賞、最優秀ポスター賞、ピープルズ・チョイス賞が授与された。ARPSは、新たに設置されたロナルド・ローゼン賞を最優秀若手研究者に授与した(Ronald RosenはARPSの創始者の一人)。

特別セッションとしては、医療における放射線防護、緊急時の対応と備え、医療保健分野の安全文化が取り上げられた。産業界、規制当局、国内外の専門家が参加した特別ラウンドテーブルディスカッションでは、鉱業および鉱物加工分野におけるNORMの規制上の課題と適用について討論が行われた。

AOGRP-5で強調された以下の重要な点を共有しておきたい。

1. 放射線管理者でもある医学物理士の意見は、放射線防護にとって重要である。これらの物理士は、放射線の医療応用を実施する中で放射線防護の観点から監視も確実にしなければならないという課題を抱えているからである。
2. 放射線防護の専門家は、放射線に係る特定の活動に伴うリスクを明確に認識し、伝え、リスクへの対策を提案することが求められる。放射線防護専門家は、その解決策を、確信を持って放射線規制当局に提示することが求められる。
3. Roger Coates会長の基調講演「安全側に立つ姿勢の、慎重さと隠された負担」では、規制の適切な適用の重要性が述べられた。産業界と規制当局は、放射線防護のための一貫した測定可能な「段階的」アプローチを開発するために協力しなければならない。
4. 非電離放射線は、私たちの放射線防護の専門分野の中で展開すべき課題である。放射線防護の実務者として私たちは、関係者および地域社会に情報を提供する必要がある。

次回、第6回アジア・オセアニアIRPA地域会合は、2022年にインド・ムンバイで開催される予定であるが、これを待たずに行動を起こす必要がある。



第5回アジア・オセアニアIRPA地域会合
(Cameron Jeffries、ARPS前会長)

